

杉並区立
大田黒公園

大田黒公園 への アクセス



交通のご案内

- ◆電車 JR中央線、東京メトロ 荻窪駅下車
徒歩 10分 (800m)
- ◆車 園内には駐車場はございません。
お近くの有料駐車場をご利用下さい。
- ◆自転車 正門向かって右側にある駐輪場をご
利用下さい。

杉並区立 大田黒公園

- 開園日 1月2日 ~ 12月28日
- 開園時間 9時 ~ 17時 (入園は16時半迄)
- 面積 8,972.31㎡ (2719坪)
- 開園 昭和56年10月1日
- 施設 茶室
記念館(9時 ~ 16時公開)

〒167-0051 東京都杉並区荻窪3-33-12
 管理事務所 TEL : 03-3398-5814
 FAX : 03-6279-9202
 指定管理者 箱根植木株式会社

大田黒公園のあらまし

この公園は、大田黒元雄氏の屋敷跡を杉並区が日本庭園として整備し、昭和56年10月1日に開園したものです。大田黒氏は、86歳で逝去されるまで47年間余りにわたって、この地で音楽活動を続けられ晩年を過ごされました。

この公園の約30%に当たる2,679.63㎡は公園にしてほしいとの氏の遺志により、ご遺族から杉並区に寄付されたものです。公園化に際し、できる限り原型保存を図り従前からあった池の再現をしました。園内には樹齢100年を超えるイチョウ並木を始め、ケヤキ、クロマツ、アカマツ、シイノキなどの巨木がうっそうと茂っています。

また、数寄屋作りの茶室、民家の土間を思わせるような休憩室のほかに、氏の仕事部屋であったベンガラ色の記念館が保存されています。記念館は、昭和8年に建築されたもので当時としては珍しい西洋風の建築物です。室内には生前氏が愛用されていたスタインウェイ社製のピアノや蓄音機などが残されています。平成28年に、記念館は園内の蔵と共に登録有形文化財に登録されました。

大田黒元雄氏 プロフィール

- 1910(明治43年) 県立小田原中学(現小田原高等学校)を卒業。ピアノを東京音楽学校、ペッツォルトに学んだ。
- 1912(大正1年) ロンドン大学に留学(19歳)
- 1914(大正3年) 第一次世界大戦開戦のため帰国し東京にて執筆活動を始める。
- 1915(大正4年) ドビュッシーやストラヴィンスキーを初めて日本に紹介し、同時代の欧米音楽の普及に努めた。
- 1918(大正7年) 廣田ちづゑ(1894~1974)と結婚
- 1946(昭和21年) NHKラジオ番組「話の泉」に起用され茶の間の人気を集めた。(53歳)
- 1979(昭和54年) 1月23日没(86歳)

功績

- 1964(昭和39年) 紫綬褒章
- 1967(昭和42年) 勲三等瑞宝章
- 1977(昭和52年) 文化功労賞
- 主な著作 : 歌劇大観、歌劇大事典、西洋音楽物語
バッハよりシェーンベルヒ など



園内の見どころ

正門



総檜の切妻づくり、屋根は
棧瓦ぶき、塀は築地塀です。

イチヨウ並木



70mの御影石両脇には樹齢100年
を経た27本の大イチヨウが続いてい
ます。

流れ



高低差を利用した自然の流れが
庭に取り入れられています。

紅葉ライトアップ(11月末~12月初旬)



園内60本以上のモミジが、秋
の紅葉を演出してくれます。

秋の紅葉
紅葉の季節にはライトアップ
イベントを実施しており、
幻想的な世界をお楽しみ頂
けます。

あずま屋と池



柱はナグリ仕上げが施されています。

中庭



中庭には井筒があり、そこからの細い
流れが茶室をめぐり木立の中を流れ、
池に注いでいます。

管理
事務所

蔵 (非公開)
(登録有形文化財)

記念館 (2階非公開)
(登録有形文化財)

茶室



数寄屋作りの茶室8畳、水屋5畳、
定員15名までのご利用が可能です。
又、釜、その他茶道具類の用意も有
ります。

催し物広場



毎年4月後半に8本のサトザクラがきれ
いな花をつけます。



昭和8年に建築されたもので、当時として
は珍しい西洋風の建築物です。室内には
生前氏が愛用したスタインウェイ社製の
ピアノや蓄音機が展示されています。

茶室の利用案内

8畳 (茶道、華道、書道 に利用できます。)

- ご利用には、杉並区 公共施設予約システム「ささんかねっと」に利用者登録が必要となります。詳細は、杉並区 区民生活部 地域課にお問い合わせ下さい。(http://www.city.suginami.tokyo.jp/)
- 申し込み 杉並区公共施設予約システムの「ささんかねっと」をご利用下さい。

貸室ご利用のご案内

角川庭園・すぎなみ詩歌館では、茶室のほか、各部屋を貸し出しております。句会・茶会などにご利用ください。



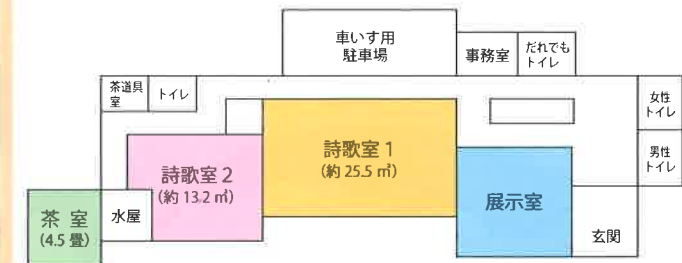
部屋名	面積	定員	利用料金		
			午前 午前9時から正午	午後 午後1時から午後5時	延長料金
詩歌室1	約25.5㎡	20名	1,300円	1,800円	500円
詩歌室2	約13.2㎡	10名	900円	1,200円	200円
茶室	茶室 4.5畳 水屋 2畳	5名	600円	900円	100円

[平成29年4月時点]

お申し込み方法

- ◆杉並区公共施設予約システム「さざんかねっと」から予約してください。(事前に利用者登録が必要です。)
- ◆利用日の3か月前の15日よりお申し込みいただけます。
- ◆詩歌でご利用の団体は優先的な予約ができます。
(角川庭園にて詩歌団体登録が必要です。詳しくはお問い合わせください。)

間取り



利用上のご注意

- 施設内への飲食物の持ち込み及びペットを連れての利用はできません。
- 当施設には一般の駐車場はございませんので、車でのご来園はご遠慮ください。

角川庭園 周辺見どころ案内図



角川庭園まで
JR中央線・東京
メトロ丸の内線
荻窪駅南口から
徒歩15分(約1km)



①長屋門
長屋門は第11代将軍家斉が寛政年間に鷹狩の際、作らせたといわれています。



②西郊ロッヂング
昭和初期に附け付き高級下宿として建てられた建物です。国の登録有形文化財です。



③読書の森公園
区立中央図書館に隣接し木陰で本が読める公園です。図書館側にガンジー像があります。



④大田黒公園
音楽評論家大田黒元雄氏の屋敷跡を杉並区が日本庭園として整備し公園にしました。



⑤善福寺川緑地
蛇行する善福寺川にそって豊富な緑と遊歩道があります。区内有数の桜の名所です。

杉並区立

角川庭園・幻戯山房 ~すぎなみ詩歌館~

住所 杉並区荻窪3-14-22

電話 03-6795-6855

開園時間 午前9時から午後5時まで

休園日 毎週水曜日、12月29日から1月1日

杉並区立

角川庭園・幻戯山房

~すぎなみ詩歌館~



四季折々の草花と俳句の楽しめる庭園



角川庭園の沿革

角川庭園は、俳人で角川書店の創設者である角川源義氏の旧邸宅を、杉並区が遺族から寄贈を受けて改修したものです。平成21(2009)年5月10日に区立公園として開園しました。建物は昭和30(1955)年竣工の



木造二階建瓦葺近代数寄屋造で、平成21年11月に国の登録有形文化財に、平成28(2016)年9月に区の景観重要建造物に登録されました。

建物の建築当時この地は、緩やかな斜面の野菜畑で、その下は田んぼが広がる見晴らしのよい場所でした。庭園は、建物入り口付近にアカマツ・ウメを植え、茶室の前には武蔵野の雑木林を思わせるコナラ・エゴノキ・ホオノキなどを配しています。昭和35(1960)年頃隣接する田んぼは埋立てられ荻窪団地が建設されたため、南側にシラカシを植えて目隠しとしました。

庭園は建設時の源義氏の考え方を受け継ぎ、俳句に相応しい野趣あふれる庭園を維持し、四季折々の花や草木を楽しむことができます。



建物

展示室

玄関を抜けて左が旧応接間を改装した展示室です。角川源義氏の俳句、写真や所蔵品を展示しています。



詩歌室

句会、講座、華道などに貸し出しています。



茶室

建物の最奥にある四畳半の茶室に二畳の水屋が付いています。すべての柱が土壁に隠された簡素な内装で、雨戸やガラス戸は全て壁内の戸袋に納められる開放的なつくりとなっており、庭園を眺めながら茶の湯を楽しめるよう配慮されています。



▲ 水屋 茶室には二畳の水屋が附属しています。



▲ 茶道具室 茶道具は源義夫妻が愛用したものも含み無料で貸し出しております。茶碗から軸まで揃い、充分楽しむことができます。



庭園



石畳の小径

園内に入って左手の庭に続く道は、建築当時のもので、自然石を組み合わせた石畳です。

芭蕉

松尾芭蕉にちなんだ角川庭園のエントランスのシンボルツリーです。毎年バナナのような実をつけます。「花芭蕉・破れ芭蕉・青芭蕉」は俳句の季語にもなっています。



萩(おぎ)

荻窪の由来にもなった萩は、玄関奥の井戸端でご覧になれます。



芭蕉の花



水琴窟

つくばいから水を流すと心地よい音色が楽しめます。



句碑

水琴窟のそばには源義氏が霧ヶ峰で詠んだ句碑があります。